

1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭 教頭 教頭	名山 優 山下 由美 都築 睦美 岩寄 淳子
学力向上推進員	主幹教諭	吉本 佑司
委員	教諭 小学部長 教諭 中学部長 教諭 高等部長	松崎 規恵 森 しのぶ 南本 みどり

2 学力・学習状況における現状分析、目標等

【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

( 高 等 部 ) 幼 児 児 童 生 徒 の 状 況			
よさ	丈夫な身体を作ったり、社会人として必要な知識・技能・態度を身につけたりするための学習活動に意欲的に取り組んでいる。	課題 限られた時間(3年間)の中で、生徒がいかに多くのことを学ぶことができるか、また、身につけたことを卒業後に生かすことができるかが課題である。	
	具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
	学習や就業体験で見つけた自己の課題を改善し、次の目標に向けて主体的に取り組む力を育てる。	生徒一人一人の育成をめざす資質・能力に応じた個別の指導計画を作成し、目標の達成率が80%を超える。	個別の指導計画における目標の達成率が、1年生87.9%、2年生98.2%、3年生98.5%と全学年で目標の80%を超えることができた。
			評価 A
	具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
	生徒一人一人の特性や教育的ニーズに等に応じた合理的配慮や個別の指導計画に基づいたきめ細やかな指導を展開するために、学習内容項目表や作業評価基準表を活用し、教材教具の工夫を図り、指導方法の充実に努める。	・教科担当者での指導内容の検討会を積極的に行い、指導目標の明確化や目標に応じた授業構成を考える。 ・個別の指導計画立案時に学習内容項目表や作業基準評価表が活用できているか年に2回確認する。	・各学年において、教科担当者で学習内容の引き継ぎ、生徒の実態把握、指導内容の検討等を行った。 ・学習内容項目表については年に1回、作業基準評価表は年に2回確認を実施した。個別の指導計画に活かすことができた。
	* 中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項			
個別の指導計画における目標の達成率が3学年ともに80%以上となり成果指標を越えることができた。全体的に達成率の低かった学年については、保護者のニーズや教科担当者間で連携を図り、さらにより良い指導内容について検討をしていきたい。生徒の実態や発達の段階に応じて、各教科等の目標や指導内容、合理的な配慮に基づいた指導方法についても教員間でしっかりと共有し、組織的・計画的に行い、更に充実させていきたい。また、学習内容項目表や作業基準評価表をより個別の指導計画に活かすことができるように、内容の見直し等を継続し、定着するようしていきたい。			